





都名所圖會卷之四目錄

右白虎

薄馬場	野々宮	僧兵遍昭古跡	大澤池	清凉寺	愛宕山血龍圖	時雨亭	三寶寺	清瀧川	朝日峯	月輪寺
龜山	常寂寺	遍昭寺山	名古曾瀧	磋藏帝塔	長明神	厭離菴	小倉山	磋藏化野	白雲寺	時雨樓
天龍寺	芥川	千代古道	相澤池	融大長塔	西行古跡	定家古跡	二尊院	念佛寺	權原	高野瀧
嵐山	歌詠橋	藤の聲の家	廣澤池	大覺寺	車僧塔	為家墳	淨金剛院	往生院	火伏權現	日暮瀧



大悲閣  
 西行樓  
 梅の宮  
 葺りのの  
 葉室西芳寺  
 天龍森  
 久遠寺  
 大原野春日  
 西行樓  
 栢社  
 小督塚  
 西行樓  
 安堵橋  
 本橋社  
 梅津川  
 月讀社  
 地藏院  
 上野橋  
 大江坂  
 花の寺  
 せいの水  
 西岩倉  
 後月橋  
 倭川寺  
 櫻のり  
 常盤社  
 地藏堂  
 西院春日社  
 華嚴寺  
 唐櫃越  
 桂川  
 時鳥園  
 隴清水  
 龍の窟  
 三鈷寺  
 千鳥淵  
 有栢川  
 車折社  
 右秦彦降寺  
 海生寺  
 松尾社  
 夜半社  
 津住寺  
 桂の里  
 峠地藏  
 日野嶽  
 長園都  
 梵嶽

善峯寺  
 業平母公塔  
 辨天社  
 唐橋  
 貞徳翁墳  
 法傳寺  
 琴彈橋  
 羽束師森  
 乙訓寺  
 揚谷觀音堂  
 歸海印寺  
 觀音寺  
 宗鑑古跡  
 小堀山十福寺  
 在原業平塔  
 在源業平塔  
 源為義塚  
 山伏塚  
 鳥羽里  
 久世里  
 福田寺  
 真經寺  
 奥海印寺  
 小倉明神  
 離宮八幡宮  
 妙喜菴  
 谷觀音堂  
 地藏堂  
 横大路牛車圖  
 鷺尾寺  
 向日明神  
 粟生光明寺  
 長園天滿宮  
 山崎  
 八大天王  
 園戸明神  
 地藏堂  
 板井清水  
 寺戸願徳寺  
 寂照院  
 園明寺  
 宝寺  
 天滿宮社  
 實相寺  
 下名孫志塚寺  
 藏王寺  
 水薬師  
 松尾系礼忌  
 塔竈古跡  
 塔海池



月輪寺









愛宕山のや一海王城の乾し朝日嶽白雲寺と號一此名居り  
坂海又十所ありて一々試の峠あり清瀨川後橋橋火煙燈現を  
十七町目あり橋あり水の麓あり南星峯と號れこの嶺を  
の鐵の華表れ額あり表を朝日山表と白雲寺と名に  
西行法師  
岩根志清瀨川の早々川波押りくる岩れ山吹  
核中納言國虎  
阿蘇は白敷子れもあつて山橋あり色いろり川  
取仲  
本殿阿志子山権現ありて祭所へ侍拜冊尊火産靈尊之本殿を  
將軍地藏を並りて一帝都れ守護神として火災と永く退ゆ  
之代を鷹が峯れりありと光仁天皇此御宇天應元年に慶後  
法師け山とてしとて初結しぬ一説あり天竺に日羅唐士の足界日本に  
元年征小角泰澄は西入りの悪鬼退治せんとて山の山吹岩の石を重くて靈  
を祈り愛宕山の黒雲を絶て兩聖人の御宇に黒雲を絶て白雲とす故に  
白雲寺とすのく其る在れ中は地藏龍樹布留那毘沙門天のく出立  
訶字は尊像に甲冑如帶一將軍の形現れぬ有り當社に遠くを來り

て和能清磨例祭を四月中に亥日ありて神樂二基あり嵯峨清涼寺に  
鎮守は清涼所とて野々宮小振之神は依倚あり六月廿四日  
千日参りとて宵より群集一月毎に縁日小も老人の血竹興成ありて  
られ婦人童子れりちもる万奴の嶮れといふ坂坂は茶店小休  
ら白毛目のおと摸ありといふ土蓋がけふ興とて足はを依依を  
山城園二小列する高山ありて炎暑れれも峯寒し道は峻難たりとい  
とも常に詣人おなく願きも只権現れ威徳ぞり  
鎌倉山月輪寺に愛宕の山脈あり鐵のを井くらをたてて當寺は本寺八十一  
面觀世音安坐並祖師堂は空也上人親書聖人月輪殿下は像あり  
用基は慶後法師中興へ九條園白老改大臣兼實公之  
龍女水空也上人は地小出居ありて當山寒探訪より龍如婦人化して  
の清泉涌出ありて龍女ありて人今も小塔減る一所あり  
小園瓦遷の時實實公名抄と押みありて自ら自他の像を送り別きゆとれは橋



三寶院



往生院



四五

念佛寺  
福田寺  
後藤院

平山

院忍諱











小倉山二尊院の愛宕に南にあり宗吉の天台眞言律浄土四宗に兼修あり

小倉山麓の寺に相小のぬきかぐはげりあり後成

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

夕暮の宿あり後成小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

小倉山を越え里の夕暮に宿あり順徳院

王びやとらに山莊と菅雄藏殿と極其後星霜多あり中興は然上人開  
居しゆいえ久元年十一月七日一宗機範の式七ヶ條の記法又と制せし自  
と保て判教とそらる當院第二世信空上人とて西上人等百八十九人  
記法に因りてのく自學の念とせたり然谷二帝直実も九十人目か又神愛は舎  
利と安を法然上人は舎利の式とて作りて曰佛子牟尼の遺教のりて淨土の一  
恩徳ありを報謝とてをせたりいとこのとあるおれ是私尊の  
足引れ淨影其傳小日月輪禪定殿下法然上人浄歸依の志法々尊敬乃  
あまり上人に真影と写さんと傳り上人のく辭して退出せし其後上人  
召請せし浴室小入は浴ありて衣と着し念仏の休息の回西工法眼  
宅磨さふありて簾中より窺小窺し其形相候うのさせらる文六  
坐しありて一方の足先出り只ありありありありのほかに盡せり上人を  
系りの府殿下に壽像候かけて開眼候告とて室より上人を召らば足乃  
出りり平懐の形ありとて持念せししつら忽然として具足引れ坐



せしは染しるる是偏ふよ人の奇特の繪師れ名譽ありしとて人と奇異  
のそいなりしふる是より足引の津和を標したる

法然上人れ身二世正信房湛空と徳大寺大官實徳公孫之菩提れ  
真淨寂然志深よりれを降土門入って當院と再興し土門院後醍醐院

二代の國師とより寛喜上皇清淨依れ勅命ふはるを清遺賢と當院の所  
塔に納め奉り當院西の二世正信上人も後深州院龜之院後宇多院伏見

院に圓師とより當院の縁起の伏見宮貞敦親王西三條公條卿の兩帝と  
外顯の後奈良院の宸翰して画の土佐光信より大聖文殊の三衣傳

教大師の五條智度表意覺大師の三衣皇慶阿闍梨の智徳あり  
初て傳へし之は系ふが表裏あり具外五銚等伏見院よりれ清考附

として當院の什寶あり  
黄門定家卿の公莊といふ旧地の佛殿のうしろれ心腹ありかの卿より  
以て當院諸堂魏々として後世小舎ふふありて号するゆは

檀林寺といひむら檀林皇后は草創之れと後醍醐院堂と稱ん唐の義堂

亡廢しては地は津金剛院と建り今の二尊院に  
津金剛院のゆゑ又英海調よりとくけり

長明神れや一海に二尊院大門のまゝる祠ありあり所は檀林皇后は髮之  
といひ傳へ又日裳宮は南二町むらふあり皇后の纏袴とあるといひ

裏柳社に大門のむらぎ中院ありあり上衣れ散り所ありとを檀林  
皇后嘉智子の後醍醐天皇に寵愛ありと西施毛嬙ふも尚ぬ美人之

薨下ぬも後戀慕愛執のそい後融散させんとを遺命ふらり後  
峨野く系ふ於る其處都る所ふや一り後建くをあるなり

とく  
西行法師の房れは長のや一りれありあり

我もの秋の指ぬらふ多小舎に里ふ家居せしより 西行法師  
車僧の塚に二尊院のまゝ敷の中ふ一堆の所ありむら一りあり後抄に





清涼寺













後拾遺  
 くらげの月夜  
 住人もさね  
 山里の  
 秋は  
 夜は  
 月乃光りも  
 さひかり  
 あり  
 藤衣範永

八角堂

遍照寺

児社

釣殿橋

山



廣澤池  
 遍照寺旧跡

遍照寺山

香頭山

座禪石

徳正堂

千代古樋

足形池  
土壘の井  
さし石



廣澤池の大澤に巽あり寛朝僧正は池をほかりありてらん

廣澤池の堰の柳うけみせりもつるまをそふ家 為家

竹後の瓦廣はふまりりつてつらりたる

後拾 心の塔小塔もかろそを林の月を世にふも国にふし 荻原範永

新十 つゆへの人へけりて月のまはる廣澤乃池 源位光政

中秋の月をんと都下の貴姓池の汀小塔んでよのそりる孟とめりり

千里を共ありてくまを空にけりた月も霜る廣澤池を流し

も今さうにありて物悲しく風い織雲を掃き降くあは月明ふ

降る寒し謝荘の月夜を位を廣亮を南橋小堂を和漢中秋の

月夜賞とるる古今ふまらけ

遍照寺ふと池の乾ふ向くろふとつゆへ寛朝僧正は池をほかりありてらん

真言真像を池に遍照寺の旧跡にふれ禁ふあり存尊の十一面觀世音

赤不動共弘法大師の位之 坐禪石 あり寛朝の坐禪

所へ登天松 寛朝は松の権あり天小堂りりりり 佐古曾の水 池の西

系り親音池の乾ふありつゆへ遍照寺より 兜のやしろ 池の西の

寛朝僧正の常小像ありてはへ一兜あり寛朝登天の後 兜ヶ石 坐禪石の

兜ヶ石 坐禪石の 下ふあり

鉤殿橋のののの 大道法師足形池 廣澤の巽之町 屏風 廣澤

千代の古道 幸盤へ通へ細るり

帯より池 廣澤のむぐの池の靈帯と化して人とありりりり

志りふが岩 的野 仙翁洞 野依 其所ありりり

源草里 廣澤寺のむぐの池の今八段とつふ 其所ありりり

土意つらりりりりり其人の氏を源草とつふ

千代の古道 幸盤へ通へ細るり

帯より池 廣澤のむぐの池の靈帯と化して人とありりりり

志りふが岩 的野 仙翁洞 野依 其所ありりり

源草里 廣澤寺のむぐの池の今八段とつふ 其所ありりり

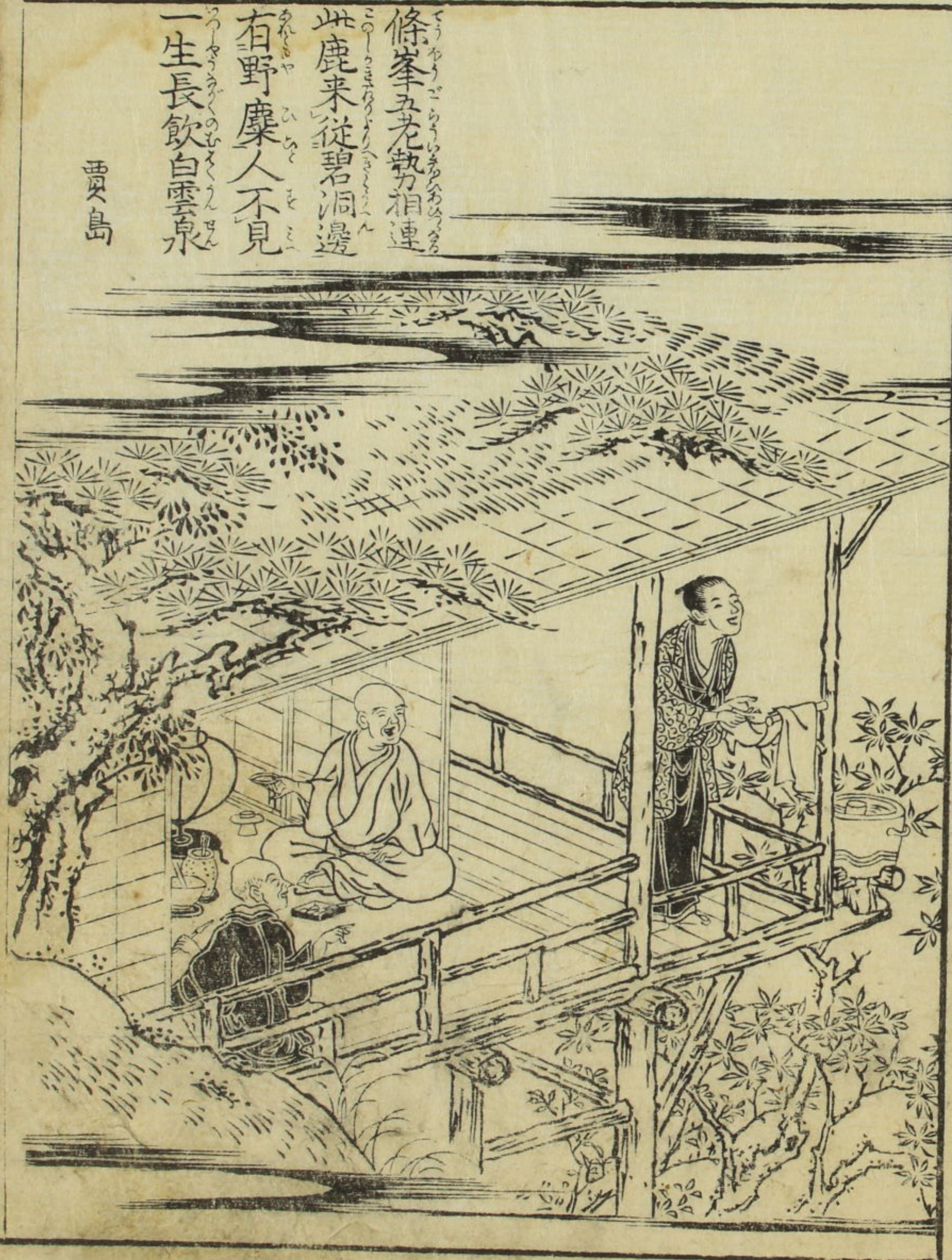
土意つらりりりりり其人の氏を源草とつふ

千代の古道 幸盤へ通へ細るり



條峯五老執刀相連  
 此鹿來從碧洞邊  
 有野麋人不見  
 一生長飲白雲泉

賈島



新古今  
 下野系  
 うりり  
 夕の  
 ぬれや  
 ひろり  
 麻れ  
 鳴らん  
 空隆





嵯峨野の大覺寺清凉寺にありては小幡とて天龍寺に傳はり  
 迎坂下嵯峨とるべく野宮の其中途よりいみへたり因縁の地  
 して故人も多くありて秀吟れ和歌好むるに違ふし源順もけ  
 地小幡にて紫藤の賦を傳り掃墓室く僧侶の室とありぬるに  
 しい文粹のせりありて舊野とて田獵の地ありて嵯峨帝始  
 て御狩ありてより文徳清和陽成の二帝におこりてせめて  
 一が光孝帝のころと興一の御幸ありぬるにいひ野へ友人  
 を遣はせし松虫鈴虫とてせめて其の野に虫を  
 造りてありて史記撰之奉りての嵯峨帝の二女双の御書  
 之日本二帝の第一より又説文も達しゆるに文善秀藤  
 にんてより御佐良淳和帝に護りてせめてありて離宮あり  
 かくれ嵐嶺の白櫻龜緒れ落月小幡龜糸の御書ありて乃  
 世捨人ありて野に女郎花のうらぐたはるる馬より居て

よめり

古今序

玉葉

名ふめりておほくありて女郎花我ながら余徳  
 のり人の草名衣不しもわな秋はる野四方の白鳥

僧正遍照

順徳院

長久二年八月松尾社に幸侍りて宮の女房車  
 小草のつれなきかして嵯峨野にさくうへふまらるる物  
 侍りては遠侍のつらさめてはくまのつらさを侍りては  
 車のまらるるうらよせせよみゆる

後古

新十

日

うらりたる世のさうれ秋の苦も耐えもあらずらん  
 絶せど花後れさる末もさうの結ゆの流りまら  
 うらりたる世のさうれ秋の苦も耐えもあらずらん

中納言賢俊

龜山院

法平定為

嵯峨十景

叡岳晴雪  
 愛宕雲樹  
 嵐嶺白櫻  
 雄藏紅楓

難瀨飛瀑  
 五臺晨鐘  
 仙翁交浪

遍昭孤松  
 幡山靈社  
 龜緒落月







常寂光寺



芥川の野宮のむぎを流れ末の大井河ふたなる小川わたりむり芥川

殿とつふ所あり龜山院佛堂あり一所とて芥川當分の中に二ヶ所あり和名は

竹田の芥川

歌詰橋の天龍寺のま芥川の流れふかろ橋より西行法師

け所張通りたすひしやうた奇事ふまきとわかれ僧舎敷首

あり後西行をよははより一より號るとぞ

薄馬場の天龍寺に東康王院のむらりあり今ハ橋氏薄殿らに住ん

龜山の天龍寺の西なること龜の甲に似るより後醍醐帝龜山帝

離宮張いとるみほせあり旧跡あり

龜山の仙洞あり山の極限あり

春おふふむやわらわらみらの花はをを宿お咲れ

かめのをれ滝つは波ありとて代の敷る秋の夜乃月

子日さるるぐくはれと龜のをれ岩の松とたおま

鳥家

大納言通保

石上三皇













玉兼  
 又たぐひ  
 あつきの  
 山れ  
 うり  
 松の房ふ  
 有の  
 月  
 後成



嵐山  
 法輪寺  
 渡月橋



山嵐と大井川と帯て山に向くは形あり 龜山院吉祥の標をうけし

新 あらし山嵐もよりわらふらん標の白糸 後宇多院

新 多ひつづらんも嵐のふれん標をうけし 法印靜賢

後千 あらし山麓の花乃標をうけし 前大納言為氏

標谷やしろありあらし山の麓あり松尾七社の内形あり

戸難瀬瀧の標谷の西あり大井川小落 大井川の一名

玉葉 と形せより流と淨は大井川終はめる本葉ありなり 後成

後千 空形を河玉りる流の月夜をえんを標をうけし 定家

坐禅石 あらし山の北あり 庵窓四軒 嵐山城 峯小城あり細川右末が改えの

永正年中に 藏王谷 藏王権現安楽堂今堂あり

大悲閣をあらし山の麓に道ありて後月橋より七町むろり西をり

本尊観音の立像ありて惠心の化なり 角倉了意の碑あり羅

心子さね後撰 了意は大井川の岩を削りて小丹波より舟行せし

智福山法輪寺の後月橋の南あり真言宗ありて本尊を虚空藏

菩薩に坐像あり 道昌法師 脇士と明星天雨寶童子あり

交當寺は天平年中に建立ありて葛井寺とす 天慶の虚空也上人の住して

中興の因基道昌僧都姓の秦氏ありて讚別香河郡の人弘法大師の

真言の密法をうけ虚空藏求聞持の法を傳せんといふ小百日系終

し五月の月皓月西山の隈に明星東天ふ出る府因伽あり

光炎頓小耀て明星天衣れ袖のふ来形一忽虚空藏菩薩と現れあり

總の如く降る如く敷日と經といふも具體滅せし星生身の尊教あり

道昌則虚空藏菩薩の像と刻袖の像と後ゆかりは河弘法大師とす

閑眼供答ありて是當寺の本尊也貞観十六年阿弥陀堂を改て法橋と號し

落星井 又明星井といふ本堂は南あり井のうへに社を建て明星とす 真橋 橋門のあり

泰珍堂 本尊の智徳を行く近奉新食の室つゝふえまあり





骸骨れうへん粧て  
花見の那

鬼貫



古今  
花さうり小糸衣  
見中てまろ  
見つてせだ  
柳橋衣  
さねまて  
都ぞ  
錦たりの  
なせは師



大堰川の水を小丹波より流れて水尾川清流川小為合ひ猿飛龍門窟  
大瀬等の名ありそありしは衣帯一は月橋伝へて末は梅津村の里  
のふじに流れては流川小なる

新古今 延喜れ清とた大井川小舟幸ゆる日

かきさく小今りと菊のふりうみは流れて底もまやまらん 坂上是則

拾遺 大井河川色の松みまことりんかゝる清草やありしむのしも 夢之

日 色くの本葉さる大井川志も川々の紅葉とわらん 忠岑

は河の流れははの小清くうめてて代小一度をむ水の黄河の引く人下は

筏のわたるあゝ遠近に騒人扁舟小の川々棹うめりてこれ岸さ乃岩

回ふよせまぬとめぬ水れまがうまに花伝神又浅流伝職して繕とさる

あり水上小踊る若鮎の釣を争つて牽動と伝楽み小石くらる所へ網と

あて夜ふ入るせんも狩あつた凜々たる風り暑を忘れ孫増れ興小棄して

戻ふ歩し帰るも多し 續文粹小天下の勝地は大堰川小過ぐるる那し

城中の名區は磯磯野小あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい

城の中の名區は磯磯野小あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい

渡月橋は六井川小ありて法橋寺人渡る橋あり一を平幸橋法橋寺  
橋もいふ

風雅 大井河香よりる橋の上ふりんとさる雨の外音 前大納言為業

小督橋は六井河の小三好茶屋の本敷の中あり小督局の橋町中納言

成範卿の女禁中一の房人さびねた琴の上も高倉院に清愛妃

より一平相園潜盛小忍はは磯磯野小傳る弾正仲園の勅と家りて

寮の所馬張りありて明月小鞭とあげ西とさるそあゆとさる神りけい

山里と詠しらんさか秋の夜のをいゝ哀小とさるかぐもるめぐりて

龜山のあゝらららら松の下むあゝらららら幽小琴の音聞へぬれ仲はさて

あそと喜しく心さるさる入て清多とてけりて清多は流るりいそ流

帰りきり一は主上のる流ゆづの清多小きくせたまひる くりたい平幸橋

千鳥淵小督橋の西武町さるり小巖あり 平幸橋の南の岸のりさるり

横笛流は小離れしけ所小身を沈し由盛表記ゆらさる 遠とあふくり

平幸橋の南の岸のりさるり 遠とあふくり

平幸橋の南の岸のりさるり 遠とあふくり

平幸橋の南の岸のりさるり 遠とあふくり

平幸橋の南の岸のりさるり 遠とあふくり



西行橋 法橋寺の南小あり西行法師は所小傳て撰之と稱と今の遷寺は法橋寺と云ふ  
靈龜山臨川寺の後月橋の東あり禪家十刹れ身二あり

三會院は本尊の弥勒佛ありて坐像之佛殿の類 三會院 足利義満公の  
とせし地を舊龜山法皇の仙居ありて建武二年十月後醍醐天皇

より開山後窓園師小初之 當寺の庭を  
鹿王院の臨川寺の東小あり禪宗ありて十刹之佛殿は本尊の釋迦佛

脇士小十六羅漢と安坐は運慶の他用基普明園師の像尊氏公の像の  
右の壇上小安坐は當寺の本願の將軍義満公ありて至徳元年の遠

立あり付寶小佛舍利あり 傳小日鎌倉將軍実朝公の靈蓋にありて宋國へ初  
後光嚴院帝の御後窓園師小初して禁裏小あり其後後窓に才子普明園師小初

今當寺小あり毎年十月十八日舍利會と修す  
車折社小下後藏材木町小あり 五道眞官降臨の地ありて一花小清涼真人

そのあり魚牛御れ車折社とを今の遠近の商家賣買の價の倍は遠きなり  
やうに社小新里小石をとりあり家小あり備前の附件の小倍しては所小  
五道眞官降臨王宮の廳小あり其後後窓に才子普明園師小初の風儀と云ふ

右柳川 柳木町れをうにあり小あり流す 齊宮 有柳川のあり人家の  
千載 小川あり

千早振つたのえれ有柳川松とどり小をのけりすは  
帷子辻 帷子町の東にあり上後藏下後藏を秦常盤廣澤愛宕等の別れなる  
帷子辻とつてを極材皇后の骸骨を野小拾しとれ帷子乃為散り

安堵橋 帷子辻の西小あり清涼寺のやより火災ありて未梅檀の香比と云ふ  
是より名はけり 甲塚 安堵橋の左ありて火の雨ありて掛地藏の西あり

常盤社 此れあり杜の下に石佛のし子地藏 杜の西小あり六地藏ありの具二あり  
常盤墓 地蔵堂の傍源光の墓あり牛若丸の母常盤前け里の人なりけり

紅葉せぬとれたのふ小伝麻をゆのれ鳴る秋と知らん 秋宣  
表柱と云ふぬる登のふ里に人々や面わたりせぬ 五原之方

深なるとれたの杜の梢よりなる秋の急いそくれ 忠定  
新後 初冬のきりめくともさか杜のあ深ぬも木をりてなれ 定家

古御所 常盤の東小あり八条女院は所小あり 藤本 杜の東小あり撥本紀傳に

恒のいへし室の常盤殿と稱す 藤本 恒一曰あり







九月十二日  
右秦牛糸

聖徳太子  
執勢  
たす  
糸文  
弘法大師



四二七

仰り  
あそ  
と  
と  
人  
作



























明智坊石像 松尾社の小一町をくりぬきあり 明智坊の山門の礎徳あり大元と

月讀社の松尾の南二町あり 松尾七社の内あり 當社鎮座のりぬき首み

以前よりなり 齊衡二年三月小松郡野月讀社を松尾の南に遷りて

實録小出より又文徳帝淳字仁壽二年小痘瘡大流傳して諸人

當社の神詔ありてその害を救ふ 是よりして貴徳痘瘡の災を免ん

神のたより 祈り由二代實録あり

狐齋の松室の西に還の傍あり 小社あり幸の神あり

華嚴寺の月讀の南谷村竹林の中あり 小松市南の華嚴寺

日如来の釋迦佛 頭小室に戴く長一尺 石小田基鳳潭像

門の額華嚴寺の芙蓉隠えの字あり 右の聯を鳳潭の字と 祈り最福寺

の延朗上人の像あり 谷堂の旧なり 近年鳳潭和尚華嚴寺あり

再興あり とて松尾安照寺に遷して 華嚴寺と改めし

衣手社 樹木絶てり系とる衣手社松尾の社也

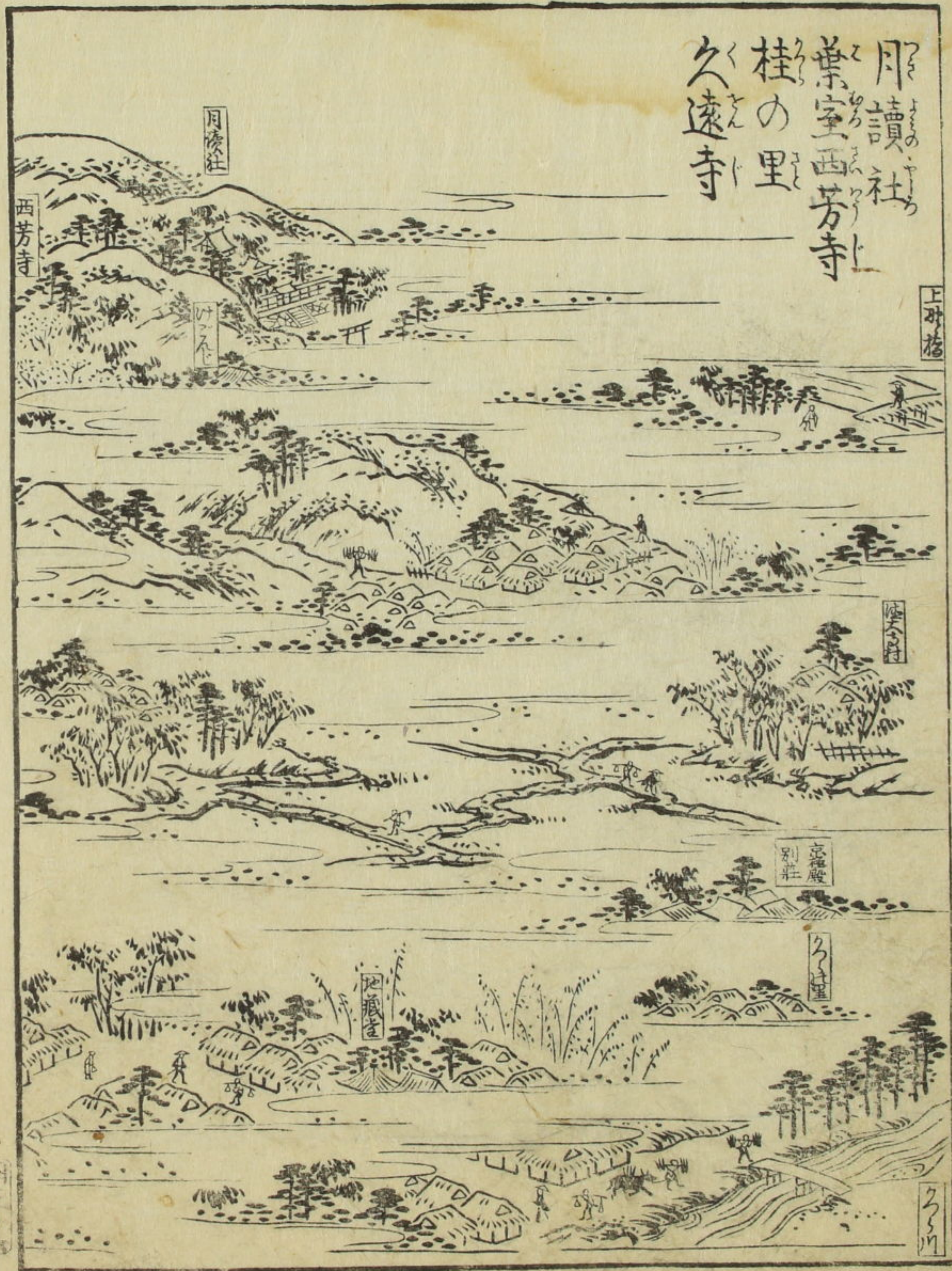
杖毎いたれ 杖毎いたれ

涼し 涼し

為氏

為氏





月讀社  
 藥室西芳寺  
 桂の里  
 久遠寺

上野橋

西芳寺  
 月讀社

上野橋

別荘

久遠寺

久遠寺

















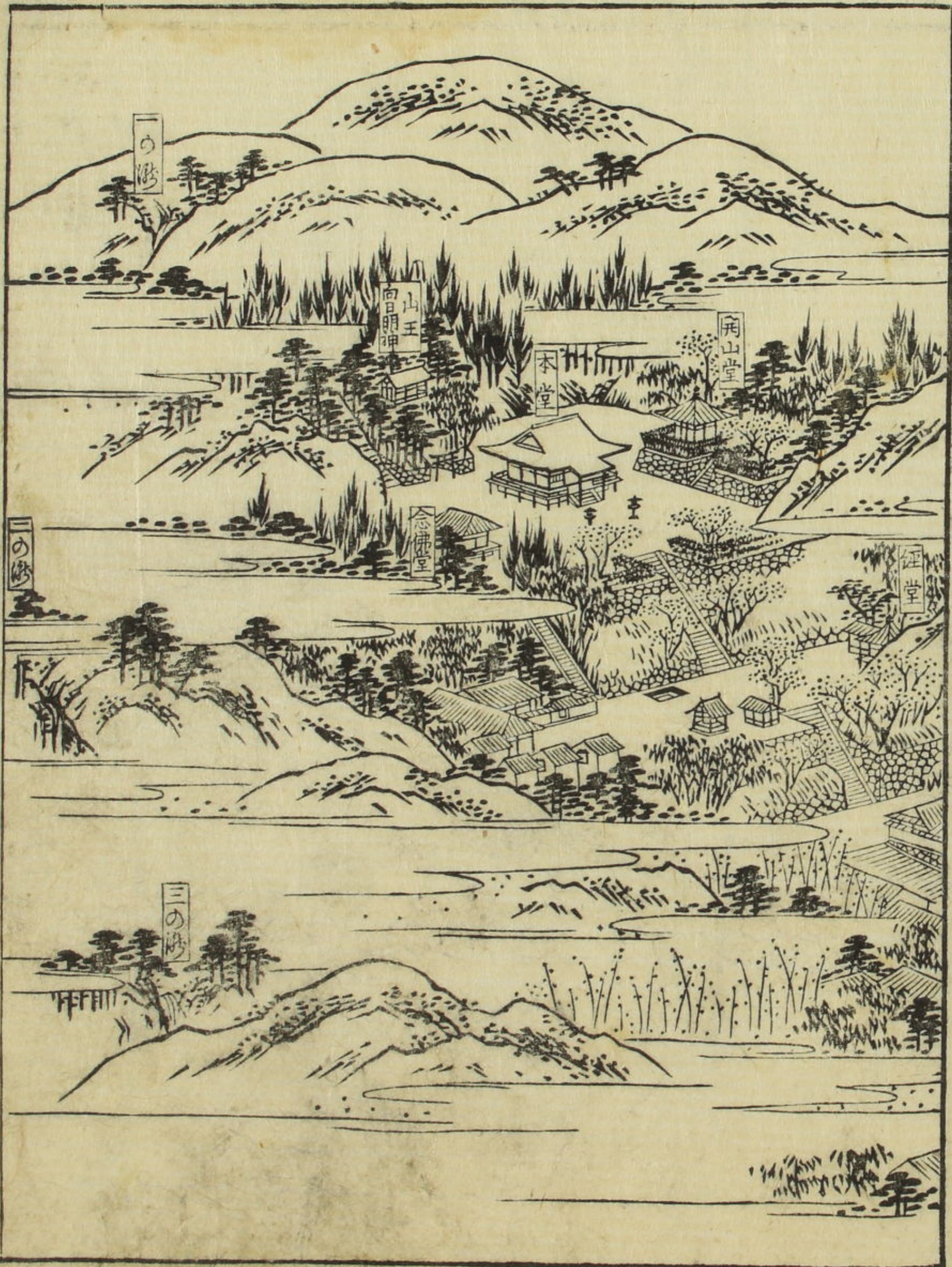












西岩倉  
金藏寺

長茅村

塩平村

村谷灰



西山三鈷寺と岩倉の南庚谷合れ上りあり宗旨は天台真言律四小兼学にして

本尊佛眼曼陀羅を觀性法橋の尊日本無二の曼陀羅にして左右の

壇上より釋迦弥陀の二佛安置信とくふ靈應奇驗あり

大師像善導大師像善惠上人像宇津宮蓮生法師像等と安置

金色不動を智證大師の位之方丈に奉る寶冠阿弥陀位と安置

拍止阿弥陀如来の慈覺大師位阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

とれた本尊に向つて念佛を奉る阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

菩薩の來迎を拜し感信を奉る阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

小龍歸らんとし阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

樹を貞永元年八月十八夜縁記阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

一巻の西三條道遙院の浄室阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

當寺の因基の源算上人の觀性法橋慈鏡和尚阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

中興の善惠上人善惠廟塔三町むりり下りあり碑の銘あり

當にれ絶頂の鬘嶽と云ふ之碑ありて具形之鈷小阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

三鈷寺といふ土人曰は頼り二大佛七城尼の所謂二大仏を京奈と

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり

七城の京大坂淀郡の高取高柳阿彌陀佛と拜せしむるはのふれりあり



三鈷寺

鬘嶽  
二大佛  
七城





西山  
善峯寺





小塩山十輪寺

中臣師宗

續後拾遺  
善てり  
秋の  
名跡と  
小塩山  
麻と  
こよひ  
鳴あうん

西山善峰寺小塩のふとありて天台宗ありて本尊は千手観音なり

此本尊は加茂の神本概本より行因法師曼瑞と号す弘仁法師と号す千手は像と

依らむ是は洛陽華堂の本なるをの餘材とて此人の像と依り當寺本尊見たり

阿弥陀堂の本尊は慈覺大師の他二重塔あり大日如來依安を依り

開基は源算上人 舊因州の人ありて孤より道のりて松らに一孤所の人

壇重受れ功と積惠心僧都の子なりと有り其後と云り此より石上坐し

七日夜坐禪と云り此より老翁死すといはれ此の生知坂に上り上人早く

佛場を建てるありて大小可なり内小殿足踏本にて燈籠と平より化して去る

天聽み連一後一條院清宇長久二年の秋加蓋成就し

白山水 當山寶光坊あり源算上人如法絶書写れし仙石名 依り上人

観念しありて阿智坂社 當山七回の中あり 観性法橋是鎮和尚

尊圓法親王等の墳當山のふとあり

小塩山十輪寺は若峰は藤小塩里ふあり天台宗ありて若峰小塩

本尊は観世音なり 花は皇西國此のりて指 腋帯地蔵 依り上人

在原業平塔 當山西の塩竈古の 本堂のりて上あり業平塩屋の系

潮溜池 當寺より一町斗ふあり湖と







水藥師



朱雀権現堂  
鳥義塚









松尾まつのお  
祭礼まつり



川勝寺の西七條の西七町ありひら 秦川勝依益建の祈り河津村中

西寺に四ツ梅小橋あり今松尾御所の神樂神所

唐橋の四ツ塚に西六町あり秀吉公朝鮮出陣に付街道なる

吉祥院天満宮唐橋に南あり本社を菅社と名す吉祥院なる

天女を安んず傳教大師の化より所い菅家の所領地ありて別荘あり

船中みりて凡波の雅小僧あり傳教大師求法の為に入唐し則同船

して吉祥天女のはなを傳教大師の御影を御影に奉りて

石原井多唐の傳あり

鳥羽里の四ツ塚の南あり上鳥羽下鳥羽と南小鳥羽

あやを茶引人あやを茶引人なる一城の多羽は

あやを茶引人あやを茶引人なる一城の多羽は

あやを茶引人あやを茶引人なる一城の多羽は

あやを茶引人あやを茶引人なる一城の多羽は

あやを茶引人あやを茶引人なる一城の多羽は

あやを茶引人あやを茶引人なる一城の多羽は

あやを茶引人あやを茶引人なる一城の多羽は

あやを茶引人あやを茶引人なる一城の多羽は

あやを茶引人あやを茶引人なる一城の多羽は

あやを茶引人あやを茶引人なる一城の多羽は





上鳥羽  
 實相寺  
 貞徳翁塚  
 地藏堂  
 さいつり



吉祥院  
 天満宮







後光  
夜う川多羽田北里北稻庭いくよにありぬ秋のふのち

新書  
夕月さ秋のふ本考なれて多羽田稻葉あふみどろく 等持院

玄塚寺こんつてい小枝こえだ北南八町ほくなんはつまちより小あり 堂どうの南みなみに 銘めい曰渡わたも元もと 尉源渡じゆうげんわた妻つま

袈裟けさ浄前じやうぜん秀玉しゆぎよく善尼ぜんに墓ぼ 天てん慶けい元げん甲子かうし年ねん六月りくごつ廿四日にじゅうよっぴつ文ぶん是ぜい上人じやうじん願がん基きをを建た立たとあり

遠藤えんとう武者むしゃ盛遠せいえん 出家しゅけして 渡わたの妻つまは志し養やう七千束しちせんしゆくのの女によとあり小真こまこと言ことばに

随ずいひ渡わたがが次つぎ安やすとと盛せい遠えんをを斬きららと貞女ていぢよのの標ひょう反はん駮はつとと世よののああるる所ところあり

法傳ほふでん寺ていをを玄塚げんつていのの南みなみあり始はじめに真言宗しんげんしゆありて本もとをを其その茶師ちし佛ぶつにに安やすままた

行基ぎやうきのの他ほかへ 洛東らくとう智恩ちおん院いん住ぢゆう徹てつ園えん智上人ちじやうじやうじんは寺てい小閑居せうかんきして淨土じやうどと改かへむ

本尊ほんそんの阿弥陀佛あみだぶつのの他ほかへ善導ぜんどう大師だいし像ざうのの他ほかへ 法然ほふぜん上人じやうじん像ざう

西山しやんざん上人じやうじんのの他ほかへへ方便水ほうべんすい 念ねん仏ぶつとと覺かくとと井いをを掘ほりりししるるゆゆへへはは名なあり

一念いっぺん寺てい 願がん基きのの南みなみありて本尊ほんそん阿弥陀佛あみだぶつのの春日かすひ他ほかあり

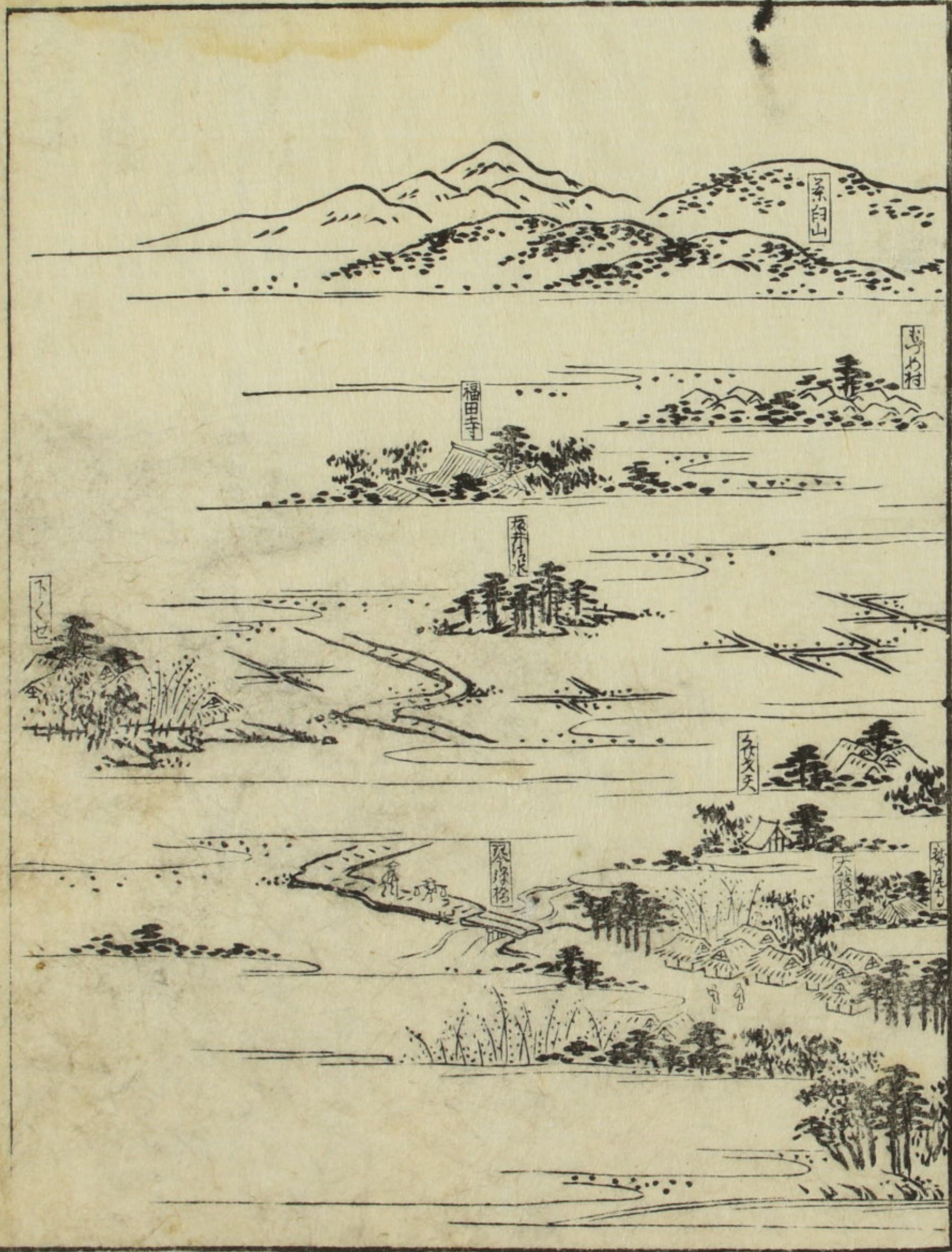
横大洛よこおほらくと下多羽しもたふたのの南みなみ小鏡せうきやうくくむむのの道みちいいれれよりよりあり秀吉しゆけい公こうのの代しろはは所ところと

運送うんそうするの舟ふね着つりりささよりより毎まい朝あさ未ますすでで船ふねひひををるる又また法ほふ函ぼんのの末すえ大だい坂さかよりよりいい所ところあり

鳥羽とりはの車くるま貸かひ  
名持なもち院いん離宮りきゆうより  
ほしくあふ時  
勅許ちやくきょありしと  
りし修しゆ入い修しゆ







久世里  
藏王堂  
琴今彈橋  
板井清水





羽東師の歳を  
 久世より里斗  
 南より久我  
 曙れ東にあり  
 上久我の社  
 天津兒屋命と  
 藤原家浦

金兼  
 家の風  
 ふらぬおゆ  
 上久我の  
 杜の云紫  
 花—くさける

上久世藏王堂の醫王山光福寺と號し宗有の四宗兼學ありて奉るは  
 藏王権現 後行者の他又三門の け寺の納村上帝の佛宇天曆年中あり  
金剛力士の聖徳をたて 降藏貴所 當寺の 吉野の奥金津嶽に岨み築りて一を以密法修めしより  
 洛小部へての夜更もく現すもて藏王権現忽然としてありしれ  
 のい宣し中へは常に法修せしめて神妙のありて今都府にありて  
 供とて永く有縁法生現すんを貴所者異れりて言 昔は修めし如く  
 と縁て肩小結び脊に則肩奉る法と多に忽化して本像とありて  
 桂川の西にありて級上りて持しゆる鐘ありて水も流れて水も流れて水の  
 鳴るに如く又一の木の人の光明ありてそれば女賊天の志場とせん於て  
 藏王に神像大石にめりて勲を是ぞ有縁地と悟り則州産みさるなり  
 持念を日一と夜西の如く大なる柳生れ又明天老弱ありし柳小なり  
 辨財天醫王善逝と唱へて拜と貴所を修めし羽とて并見天降臨の  
 地有り今耐るが藏王権現地とありて早く仏園と建て安住せし利益廣大











乙訓寺



大慈山乙訓寺の西園今里にあり當寺の推古天皇の御願ありて聖徳太子の御基あり其後弘仁二年の冬弘法大師別當職に補八幡宮に示現坂あり大師は像彫刻ありて御首の八幡宮に現し神像まきごみあり是蜜法擁護のありて故に神佛合體の御影あり當寺の本尊是之例載三月廿一日因幡を又實平法皇脱履のあり行宮ありあり是に由りて法皇すも名づかいありへる方境廣大ありて伽藍嚴重あり中頃南禪寺の伯英和尚住職又武別護持院再興ありて真言宗とありてむ  
 乙訓寺の東にあり大師蜜法修りの時及びありて  
 水ありてむ

今里 和名今里

日著れを遠の今里故史々々吾羽因幡に烟たさびく  
 明星の今里の云々あり推古天皇離宮ありて所あり  
 光明法親王





栗生光明寺



報國山光明寺の粟生里

百の淨土宗西山流後之本寺之本尊八國光

大師坐像ありて自化あり  
法然上人四國へ先遣しあり母儀の消息依りて  
阿彌陀堂の本尊の惠心僧都の化ありて江別堅田淨土堂千體佛に中  
尊あり熊谷蓮生法師法圓を負せりてけ所ありて海州府にありて  
て安直法然上人の廟蓮生の塔の本堂のうしろの山の上にありて  
阿彌陀堂の傍にありて方丈あり御鉢釋迦佛を安置にされ  
當寺の草創は法然上人の滅後十六年宋のて叡山の衆徒念佛  
宗の繁茂をりて法源く種くんで上人の所他選擇集に破して  
彈選擇集に并復堅者定照房とありて著し隆寛律師のりて  
に送る隆寛則具答ふ顯選擇集に述く汝ら僻案のありて  
るも昭夜の礫のぬしと書に山徒大不憤く三塔小觸流大亮  
蜂起して圓基僧正ふ後し奉國に逐く隆寛に遠流ありて又  
上人の墳墓と破卻せん評義まらくありて徒弟ありて

聞て大不憤に所墳に依りて所へうのて今と夜ふ入て人ありて石棺  
と堀りし其外上人所持の親像にありて奉奉來運坊のりて  
送る其翌年安貞二年正月ありて上人の石棺より光明のやれ  
しと來運坊ありて光のそとにありて奉奉りて運の南のりて  
粟生野にありて至る則は所に住る幸阿彌陀佛のそとふあり  
て具茲依りて不幸阿彌も不思議の靈告ありて手に合はまら上人  
の境身を奉奉るる棺と粟生野にありて奉奉りて上人の面見宛  
存日れぬ一則當寺の山腹にありて茶毘の時不勿結くして此處に  
小ありて異香四方に薫る則舍利と拾りて廟堂を造立し淨土  
一宗の宗廟とありて堂ありて已上當寺縁記の意ありて  
惣して當山の淨土の地ありて山林の陰にありて宝閣ありて常行人念佛  
の聲ありて講堂ありて萬卷ありて真如の月と標る林葉あり  
風波ありて黄金と布の袈裟園ありて

當寺の本堂は近代の建たるに始りて  
類する後代造るの規矩あり



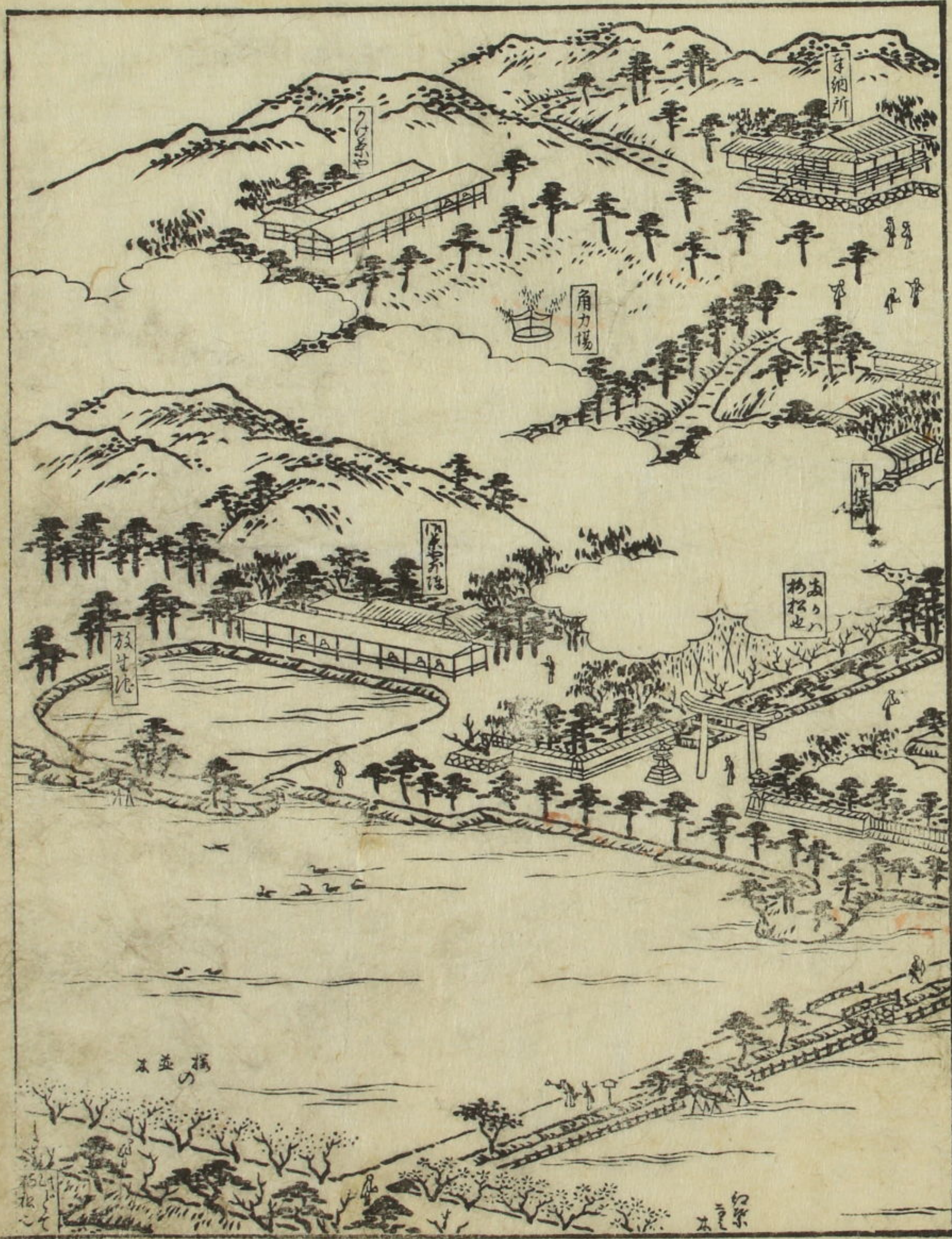


揚谷観音堂



奥海印寺寂照院







本上山奥海平寺寂照院ハ粟生の南十町余小あり宗青ハ真言ありて  
 佛殿ハ本尊ハ千手観音安楽弘法大師の他あり二王門の金剛力士ハ  
 運慶の能ありと云用基ハ道雄僧都又當寺の山より人破岩ト号する  
 所あり妙見菩薩善財童子とありわれ法華經と僧都みまげ一靈  
 峯あり又本尊觀世音ハ推の本のうへ出現一ありけいゆへ本上一と  
 又道雄僧都の俗姓ハ佐伯氏ありて奉嚴と号し後ハ空海小僧と  
 真言の密教を授る嘉祥三年小推少僧都と号す當寺傳記の  
 妙見のやしろハ西の山林ありけい里の氏神と云ふ糸ハ九月廿日あり  
 柳谷觀音堂ハ奥海印寺村の西三里ごうりあり立願山揚谷寺と號す  
 本尊ハ千手観音ありて將軍地藏毘沙門天の服士あり當寺ハ白川院  
 淨宇水觀上人閑居の地ありて浄尊感得一あり  
 揚柙の跡ハ本堂の下壇たあり後人の所ニ修りてけいり流の溪川潺湲として石  
 小鳴てはれ小舎の鳥井の前と経てと傍の山より淀川ふ入れ又淀川とい

長岡天満宮ハ岡田村の西あり清鎮坐の初古ハ所ハ弘法大師用基の佛園と云  
 立原業平卿の亭館今ハ上羽の辺あり菅公清和年の清和業平卿付けし光  
 ねを管強ふとあり業平段一あり後ハ菅公時と云ふ清入奥ましく信傳泉  
 年の清馴保をい後ハ清和應のころハ昌泰四年菅公繁宗ハ謫遷一あり  
 由坂岡路次とて送るなり別後止時一菅公即そ容放換して授け一厥後  
 社取管て長岡天満宮と崇む脇藍ハ其火ハ權て亡滅一古の本尊ハ菅公時ハ  
 社頭の道の左右ハ池塘廣くして風生トてハ細浪漲り萍蓬りてハ  
 魚鱗かくるけいハ釣糸多く一水の面に夕陽映ゆ秋の暮風  
 蹴躑を風流と云ふ  
 鞆岡ハ岡田村南小あり  
神道宣言  
 一とてらたつものねのれ糸は雲を毎にうてく向もせん 兼邦  
後少納言枕草子に  
 一とてらたつものねのれ糸は雲を毎にうてく向もせん





小倉明神

小倉山

五位川

四六十四

小倉のやしろの圓明寺の里に還り十余町西の山林あり

正位小倉大明神例祭を四月五日ありてけり

毎歳四月二日に猿樂あり 京六条異氏よりおんまゝ

圓明寺は小倉山の南ふあり本尊の薬師如来ありて聖徳太子乃

所化あり當寺いひて堂塔魏々として九條殿下光明峯寺道

家の艸創あり所子圓明寺撰政實經公晩年ふりて父祖の遺

跡を承りてけり山莊と構て閑居しの人遂にけり所に於て堯

の所墳小倉のやしろの巽あり

歸海印寺は下植野にあり宗首直言ありて本尊の千手觀音 定朝の

賜し不動明王弘法大師の化地蔵菩薩の傳教大師の化あり

平家の代海刑あり 平判常春撰丹波少将成常傳にかゝり

成就ゆ人けり寺あり 成就ゆ人けり寺あり

勝龍寺は城の北足の東ふあり

畠山右衛門佐義就らむを築信長記曰永祿十年九月廿九日岩屋主梶勝龍寺の城を搦めり







山崎  
谷の観音



大山崎天王の社素盞鳥の清子八王子と鎮座しつ之鳥居の額に小  
 野道風江等より云訪御中江春沙と次例系に四月八日にて行興之基  
當社勸請の年代詳々後神殿梁の銘曰養老二年再興と書に今本  
 坊あり天王山の城の文明二年山名是豊赤松一族上治しては城と築く  
 観音寺の天王山の東半版にあり真言宗にて佛殿の本尊は觀世音  
 之像聖德太子の仇之祖師堂に弘法大師の像と安曇本食以空僧正  
 中興して今の如く再建あり當寺の客殿より後八幡の風氣眼下を遷  
 て遷と傳の傳境あり  
 寶寺の観音寺の南にあり補陀洛山寶積寺といひ真言宗にて本尊は  
堂内の寶頭雷の像を  
 行基の仇之をのる  
 十一面觀音の之像ありて聖武帝行基大士の仇之  
聖武帝の清塔之三重の塔あり大日如来と安曇本當寺の什寶にあらはれあり  
 妙喜房の寶寺の麓にあり禪宗ありて本尊十一面觀音多之千利休  
聖武帝の清塔之三重の塔あり大日如来と安曇本當寺の什寶にあらはれあり  
 け所ありて二層ありて園を建てる秀吉公ゆりて清河ありて茶れありて  
 山崎の橋に祖武帝即位三年小足と造る中頃より後の橋とけりて終て今  
 舟ありて瀬川の渡りありて今の人衆取南の七今れ橋本は宿屋之



離宮八幡宮（八幡宮）の傍に還の中あり鳥井の額（額）行成卿の筆（筆）之神殿あり  
 八幡文と崇奉（崇奉）々々社壇の下あり石清水涌出（涌出）形相（形相）奇異（奇異）あり  
 若宮（若宮）のやしろ武内（武内）長（長）本社（本社）の傍に後（後）のふね神降（神降）ふり  
 当社（当社）の貞觀元年四月十五日行教和尚（行教和尚）宇佐宮（宇佐宮）小指（小指）で八月廿三日歸洛  
 一（一）の倚（倚）ふり時に村老（村老）少（少）和尚（和尚）對（對）一（一）去七月十五日夜（夜）に地（地）に神降（神降）ふ  
 ぬ其際日輪（日輪）の如（如）一（一）又橋樹（橋樹）の本陰（本陰）より清水（清水）のり出（出）て異香（異香）薫（薫）て行教  
 三（三）ね依（依）天聽（天聽）不達（不達）一（一）勅（勅）と奉（奉）て清水（清水）依（依）神降（神降）と神（神）殿（殿）と造（造）堂（堂）あり  
 離宮（離宮）の各々當社（當社）鎮座（鎮座）のまへあり弘仁（弘仁）帝（帝）の時（時）夜（夜）泊（泊）一（一）の倚（倚）の  
 離宮（離宮）されりは宮室（宮室）と御（御）所（所）あり離宮（離宮）八幡（八幡）と稱（稱）と  
 天（天）は宮（宮）の社腰（社腰）は石（石）杭（杭）茶（茶）の付（付）所（所）に依（依）ひかたて深（深）あり  
 君（君）のともむ省（省）れ梢（梢）とりのむ所（所）まにありみり（みり）が那（那）管（管）贈（贈）大政（大政）食  
 宗鑑（宗鑑）法師（法師）の幽居（幽居）の地（地）天（天）は宮（宮）の傍（傍）之（之）範（範）永（永）とつ（とつ）之（之）連（連）を能（能）滑（滑）と社（社）と世（世）に伝（伝）ふ  
 園（園）戸（戸）明神（明神）の山城（山城）根津（根津）の園（園）場（場）といふは所（所）に園（園）所（所）あり園（園）戸（戸）院（院）と号（号）は今の  
 町（町）の名（名）よりて園（園）戸（戸）町（町）といふ谷（谷）の觀（觀）るは此（此）所の南（南）あり  
 園（園）持（持）権（権）金（金）の像（像）も亦（亦）あり  
 山中（山中）に隠（隠）あり



